

令和3年度 京都市立東宇治高等学校学校経営計画（実施段階）
（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>自主性を基盤に、社会と関わり、課題を解決しようとする人の育成をめざす。</p> <p>そのような人を「みらいを明るくできる人」と定義し、その育成のために、生徒に次の姿勢を身に付けさせる。</p> <p>(1) 挑戦する姿勢 (2) 周囲と関わる姿勢 (3) 努力し続ける姿勢</p>	<p>前年度は、東宇治みらい会議が提言した方向性の実現に向けて第一歩を踏み出し、中長期的な検討を開始する年度とした。生徒のさらなる減少を控えた山城通学圏における東宇治高校の在り方について、本校のアイデンティティを打ち出し、学校の新しい価値観を創出していくことが求められる。</p>	<p>中期経営目標に掲げた「みらいを明るくできる人」の育成、及び「3つの姿勢」の涵養のために、本年度は次の目標に重点を置く。</p> <p>(1) 人権意識と社会性の涵養 日々の教育実践が、人としての基本を身に付け、互いの人格を尊重し、人権意識を備えた人材の育成の場であることを常に意識する。</p> <p>(2) 授業改善 新学習指導要領の理解を進め、「知識・技能の習得」を礎に、「自ら学ぼうとする力」や「知識を活用して問題を発見・解決する力」を育成するため、ICT機器の活用を踏まえた不断の授業改善を行う。</p> <p>(3) キャリア教育と進路指導 社会への貢献、社会とのかかわりを意識づけるキャリア教育を進めるとともに、高大接続改革などに対応した丁寧な進路指導を一人ひとりに行う。</p> <p>(4) 外部機関との連携 大学や地元小中学校、地域の団体などとの連携を深め、グローバル社会・地域社会で活躍するための素養を醸成する。</p> <p>(5) 総合的な探究の時間 「国際理解教育と地域連携をテーマとした探究学習」の研究をさらに推進し、「総合的な探究の時間」運営に注力する。</p>

重点目標

＜分掌・領域＞

A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> 適正なサービス処理 本質的な「働き方改革」の模索 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員に対する適正なサービス処理の周知徹底。出退勤打刻システムの100%の定着及び超過勤務者のさらなる削減。 短期経営目標の実現に向けた教職員の「働き方改革」の推進。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議資料のPDF化、朝の連絡会の時短等、教職員の負担軽減に努めたが、超過勤務者のさらなる削減に向け、業務の適正な分担について、検討する必要がある。 教職員の健康管理という観点から、さらなる働き方改革の推進が必要である。
教務部	<p>令和4年度入学生教育課程の完成</p> <p>令和4年度からの評価基準の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌・教科と連携して教育課程の作成を進める。さらに、教育課程特例校(土曜授業)の発展的な解消に伴う土曜日のあり方についても検討する。 令和4年度からの新学習指導要領に合わせて、評価基準の検討及び年間指導計画についても、各教科と連携して進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程を作成することができた。また、教育課程特例校の発展的な解消を検討し、方針をもとに調整を行っている。 各教科と連携して、観点別評価と評定についての検討を行い、学校としての方向性を確認中である。
総務企画部	<p>国際教育及び地域理解教育を探究学習を中心に系統的に推進する。</p> <p>関連諸活動を新型コロナ感染拡大状況に対応した形態で推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生の「総合的な探究の時間」において、関係分掌との連携のもとで進路選択につながる系統的な学習を具現化する。 「グローバルネットワーク京都」各部門の取組を他分掌・教科との連携で組織的に行う。 広報活動において、Web等の有効活用を促進する。 PTA・教育後援会の運営・活動を役員と協力して円滑に行う。 	B	<p>(成果)「総探」の2年間の学習を、関係分掌や担当者との連携のもとで完遂できた。また、「グローバルネットワーク京都」3部門に取り組み、学年部や教科と連携して、感染症予防をしながら無事参加することができた。</p> <p>(課題)コロナ禍の中で「総探」グループワークや国際交流など、活動制限を考慮した取組を進める必要がある。また、「グローバル」での指摘のように、学習の視点に「国際社会とのつながり」をより明確に位置づける必要がある。</p> <p>(成果)各種広報活動でデジタルコンテンツの活用を推進した。</p> <p>(課題)後半期の部活動動画作成がうまくいかなかった。更なるデジタル化を進めるためにコンテンツ作りの方法を検討する必要がある。また、企画担当分掌として、社会情勢を反映した中学生の志望に対応した企画提案をしていく必要がある。</p> <p>PTA・教育後援会活動は、組織運営・取組実施ともにコロナ禍の影響を大きく受けており、困難な状況が続いている。次年度の行事が出来るだけ行えるように、役員の方々と協力して必要な変更を加えながら活動を進める必要がある。</p>

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール作りや改良化 ・コロナ禍における生徒指導部主幹の学校行事の開催 ・学校生活と部活動における、指導基盤の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・BYODにより携帯電話のルールの見直しや服装などのルールの見直し ・文化祭、スポーツ大会等の生徒指導部主幹行事の円滑な開催 ・生徒が授業等の学校生活と部活動を一貫した姿勢で取り組めるような指導体制の構築 	B	<p>ルールの見直しや、指導において様々な分掌の先生方と連携を取った中で実施できた。指導経過をデータおして残した方が、今後の指導がスムーズに進められると思う。また部活動の活性化には課題が残った。また文化祭の企画は進められたが、実際の開催には結びつかなかった。</p>
進路指導部	<p>生徒が進路学習を通じて、社会との関わりを意識したキャリア形成を行い、希望進路実現に邁進する姿勢を涵養するために必要な支援を行う。</p>	<p>学年や状況に応じた進路学習を企画運営する。また、入試に対応できる学力を育成するために各種学力テストなどを活用できる環境を整える。 また、ICT教育推進会議と連携しICTを用いたキャリア教育についても検討を進める。</p>	B	<p>○成果 ・年間を通じて教育活動の制限が起こる中、人権学習を含む進路学習の多くを実施することができた。 ・ICTを活用した進路講習などで学力伸長の機会を確保するだけでなく、ICT教育の利活用に対する教員のスキルアップのきっかけ作りにもなった。</p> <p>○課題 ・各種学力テストの分析は行っているが情報共有にとどまっている。生徒のさらなる学力伸長に向け、分析を有効活用できる工夫を行いたい。 ・ICT利活用については一部の教員による実施に留まっている。今後学力伸長に効果のあるICTの利活用はどのようなものかを検証していく必要がある。 ・感染状況の変動が起こっても実施可能な進路学習や人権学習の方法について次年度以降検討する余地がある。 ・人権意識が希薄な生徒が一部見受けられる。課題である。</p>
	<p>生徒だけではなく教職員も高い人権意識を持つための啓発活動を行う。</p>	<p>人権啓発活動の一環として人権教育及び研修などの企画運営を行う。</p>	B	
保健部	<p>生徒の心身の健康を守り、安心・安全な学校づくりを推進する。</p>	<p>担任との連携を図り、健康上配慮の必要な生徒や不登校傾向など、様々な課題を持つ生徒に対する相談活動を充実させるとともに緊急性・必要性を見極め、カウンセリングを有効活用する。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者(スクールカウンセラー、担任)と連携し不登校傾向のある生徒及びその保護者と支援が必要な生徒について相談活動を実施した。 ・特別支援が必要な生徒に対しては地域支援センターうじとの連携を図った。 ・新型コロナウイルス感染症について感染予防・防止対策に取り組んだ。
図書部	<p>読書活動を通して生徒の情操を豊かにするとともに、広汎な知見や幅広い思考力・積極的な探究心を持った生徒を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科と連携し、図書館の利用および図書の貸出を促進する。 ・年間貸出冊数0冊の生徒の割合を全体の30%未満とし、1人あたりの年間貸出冊数8冊以上を維持し、図書委員会等の活動を通して生徒に対する読書の啓蒙に努める。 ・生徒の積極的な探究活動が円滑に行える環境を整備する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科・理科・保健体育科・英語科および総合的な探究の時間などで閲覧室・視聴覚教室の積極的な利用が行われた。 ・年間貸出冊数0冊の生徒は全体35.9%(296人)であった。 ・2月13日現在の貸出冊数は6075冊(7.4冊/人)であった。 ・新型コロナウイルス対策を徹底しつつ、図書館をできる限り開館し、生徒の読書環境の維持に努めた。
第1学年部	<p>熟慮断行。自身で深く考え、固い意志を持って行動する力を育成する。 社会集団の一員としての役割を理解し、交流する姿勢を培う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶指導、朝学習の定着、東宇治手帳の活用を基本的な生活習慣とする。 ・自身の考えを述べさせる機会を設け、意見を伝える習慣をつける。 ・学校行事、クラス活動を通して自己の役割を理解し、相互尊重を定着させる。 ・早期の進路学習を通して、文理選択・発展コースのミスマッチをなくす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の定着など校内での学習習慣を定着させることができた一方で、家庭学習の定着に課題が残った。 ・社会集団の一員としての責任と自己の役割を理解し、コロナ禍においても、相互尊重の環境作りを実現することができた。 ・文理選択及び発展コースの選択において、希望進路実現のための適切な指導を実施することができた。
第2学年部	<p>自他の相互理解、また、他者と協働し好ましい人間関係・生活集団の構築に取り組みさせる。 進路目標を具体化させ、自ら課題を解決する姿勢を培う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の教育活動のなかで、他者の言動を理解することにより、他者を尊重するという考えを意識させる。 ・保健部、教育相談会議と連携をとり、情報交換を密に行う。 ・1年次の進路学習を基盤に、1学期中に進路目標を明確にさせ、積極的な学習習慣を確立させる。特に、2年次から設定される発展コースについて、より高い目標を設定し学習に取り組ませる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期に入り、新型コロナウイルス感染症による欠席者が増えたり、その他様々な場面で、人権上や友人関係において、配慮した行動が概ねとれていた。 ・新型コロナウイルス感染症をはじめ、様々な事情で、登校できない生徒が多く、カウンセリング・教育相談会議等、保健部と連携をとりながら、また、保護者との連絡も取りながら、対応にあたった。 ・進路目標については、文理コースは十分に明確化していない生徒もいる。発展コース・英語探究コースは、明確に目標を設定している生徒が多い。・学習習慣チェックシートにより、毎日の学習習慣の可視化・定着のため実施していたが、十分な活用ができず、進路実現に繋がる学習習慣の定着は十分できなかった。

<p>第3学年部</p>	<p>生徒一人一人が自らの将来について深く考え、希望進路の実現に向け粘り強く頑張れる集団を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講習や学習室の活用による自主的・計画的な学習を实践する。 ・模試結果などを活用した客観的・的確な進路指導を行う。 ・進路決定後も自己研さんし、最後まで規律ある高校生活を送らせる。 ・社会の課題に関心を持ち、よりよい社会づくりの一員として行動する態度を育てる。 	<p>B</p>	<p>○1学年次からの継続的な指導と、生徒達の落ち着きある素直な性格が、希望進路の実現に向けて粘り強く地道に取り組む集団を形成できた。一方、志望校選択の時期になって、1～2学年次の努力不足を嘆く生徒もおり、学習習慣の確立に課題が残る。 ○本年度も制限された中での各種学校行事や部活動ではあったが、不満が募る中にも現状を受け入れ、集団で目標に向かって主体的に取り組み、感動を共有する態度が見られた。 ○コロナ禍を通じて、社会の一員としての正しい知識と責任ある行動を理解・実践することができた。</p>
<p>事務部</p>	<p>学習環境の整備並びに希望進路実現の支援</p>	<p>引き続き予算の効率的な執行と経費節減を心がけ、冷暖房等に必要な予算を確保、学習環境のさらなる整備に努める。老朽化した施設設備の改修についても継続して計画的な実施を図る。 希望進路実現に向けた就学支援制度の一層の周知を徹底するとともに、丁寧な個別対応に努める。</p>	<p>B</p>	<p>新型コロナウイルスまん延下での教室の空調運転にあたっては、運転管理を従来の事務室での集中管理から、より柔軟な対応を目指し、各教員による教室毎の管理に変更した。施設設備の改修面では会議室にエアコンを新たに設置、2棟トイレの洋式化(本庁執行工事・令和4年2月竣工)を実施した。 就学支援制度についても引き続き、丁寧な周知、個別対応に努めた。</p>

教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
国語	教育のICT化や新学習指導要領に対応できるよう、積極的な授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定の受検を促すとともに、「考える力」の基礎となる漢字、語彙の学習を丁寧に行う。 長い文章を読み論理的に考え、記述する力を養う。 ICT教育の具体的手法や効果的指導法を研究し、教員間での情報共有を図る。 	B	漢字テストや古文単語テストを毎週行い、語彙力の定着を図った。夏休みには読書課題を課し、自分の考えをさまざまな形で表現させた。今後は読書習慣を定着させることによって、思考力や表現力をさらに伸ばしていく必要がある。ICTの活用については、ロイロノートやedmodoなどを活用した授業を行い、教科会を通じて意見交流を図った。新学習指導要領に基づいた授業や評価の方法について、今後さらに検討を重ねていく必要がある。
地歴公民	生徒の主体的な学びにつながるように、生徒の興味・関心を高めるとともに、SDGsをはじめとする現代の諸課題について考察する態度を養う。希望進路を実現させるための学力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ICT・視聴覚教材の学習指導計画に基づく適切な活用 (A: 予定通り実施できた B: 毎月実施 C: 毎学期実施) JICAエッセイコンテストに向け、現代社会の授業内でSDGsを取り扱い、賞を受賞する。 (A: 個人入賞した B: 学校表彰された C: 全員が参加した) 教科内での授業研究の実施 (半数以上の教員が A: 毎月実施できた B: 学期に1回 C: 授業公開中に1回) 進学講習の実施(進学受講者の模試偏差値(全国偏差値)・共通テストの平均が A: 偏差値60・得点75 B: 偏差値55・得点68 C: 偏差値50・得点60) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教室のプロジェクター等を用い、計画的にICTを活用することができた。来年度に向けて、1年生に授業の中でiPadでそのような力を育むかを念頭におき、授業研究を進めていきたい。=A 今年度のJICAエッセイコンテストは事前指導を行った上で長欠生徒以外提出することができ、学校特別賞を受賞した。また、個人では1名の生徒が佳作入賞した。今後は授業の中でSDGsや現代の諸課題について考察する場面を設定していきたい。=A 授業公開期間中には授業見学はできたが、期間外での教科内での授業交流はできなかった。新学習指導要領施行に向けて教科内だけでなく、教科を超えた横断的な授業交流(研究)が必要である。=C 進学受講者の共通テスト平均点は世界史Bで70.8点(15名)日本史B54点(17名)であった。世界史は全国平均を上回ったものの、日本史では厳しい結果となった。私大一般に向けた指導だけでなく、総合的な学力を身につけるため、講習だけでなく授業の研究も必要である。=C
数学	基礎的な数学の学力を確実に身につけさせ、学んだ知識を活用して問題を解決する力を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業の改善やテスト前の補充、小テストの実践などで基礎的な学力を確実に身につけさせる。 定期テストに知識を活用する問題を出し、その対策を通して応用する力を身につけさせる。 	B	落ち着いた雰囲気では授業は展開されており、単元テストなどを実施することにより、きめ細かく丁寧に指導ができています。また、各学年ごとの進学講習も効果的に実施されている。「理系進学希望生徒の学力伸長」と「ICT活用」の取り組みを今後考えていきたい。
理科	科学的な自然観や考え方を身につけ、自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を積極的に活用し、授業において生徒の理解を促進できる方法について研究する。 感染症予防を徹底しながら、実験やグループ活動の機会を設け、周囲と関わりながら他者と協議し、課題を解決する姿勢を身につけさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防に注意しながら、実験やグループ活動については昨年度よりは実施することができた。今後の状況の変化により再び実施可能となれば、感染症予防を徹底しながら機会を増やしていきたい。 また、ICTについては、動画教材やパワーポイントを用いるなど授業で積極的に取り入れている教員が多く、うまく活用できている状況であるので、引き続き取り組んでいきたい。
芸術	芸術の幅広い諸活動を通して、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	新型コロナウイルス感染拡大予防対策を心掛ける中で、表現力、鑑賞力を伸ばすために基礎基本となる技術の習得を重点的に行う。また、ICT機器も部分的に活用しながら、芸術科相互の実践研究の交流を充実させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大予防のため手指消毒の徹底や活動中でのディスタンスに十分留意した上で、各科目とも一定の技術水準への到達をめざす指導を行ってきた。また生徒一人一人の進捗状況を把握し、個々の感性や能力に応じた適切な指導や助言をICTも適宜取り入れ行った。その集大成として「ひろがる心展」では生徒の個性が十分発揮された作品展示や発表ができた。運用は昨年同様、日程を拡大し授業内で科目ごとに時差を設けて実施した。
保健体育	『知』『徳』『体』の調和のとれた生徒の育成。健康の保持増進に必要な活動を自主性を持って自ら実践できる態度を養う。	コロナ対応を万全にする中で、できる最も適切な授業内容を設定する。そして、全生徒がスポーツを好きになり、親しみを持ち、生涯スポーツへと結びつけていきたい。又、3年間で計画的にトレーニングを実践し、バランスのとれた体力を持ち合わせた生徒を育成したい。	B	昨年度に引き続き、コロナ対応に対応する中での活動となった。マスクの着用に関しては、活動時以外は着用させる事が実践できたものと考えた。特に集合、挨拶時は徹底できた。活動内容は身体接触を避ける事のできる種目を選定して活動せざるを得なかった。体力的には、この二年間のピハインドを、どのように回復させて行くかが今後の課題といえる。
家庭	男女が共に自立し、共同して家庭・社会を築くための基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせる。生活の中にある課題を明らかにし、解決するための能力と態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策に十分に思慮し、知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、自分の考えを他者と共有することで考えを深め、コミュニケーション能力を養う。 パワーポイントを使用した授業を行うことで視覚的理解を深める。 	B	新型コロナウイルス感染症予防を徹底し、可能な限りアクティブラーニングの手法を活用し、価値観・考えを共有しながら授業展開をすることができた。実習・動画視聴などを通して、生徒の興味関心を引き出すことができた。感染防止のため実験・実習に大きな制約があり、授業・展開は困難を極めた。まん延防止等重点処置により、調理実習が実施できなかったことが大変残念だった。
英語	英語によるコミュニケーション能力を強化するための授業改善の取組を行う	<ul style="list-style-type: none"> 全学年の4技能のテストを以下のとおり実施する。 リーディングテスト(初見)は年間4回以上 リスニングテスト、スピーキングテスト、ライティングテストは各々年間2回以上 英語科研究チームを主に昨年度から行っているパフォーマンステストについてのCAN-DOリストの見直しをするとともに、リスニング向上する活動について研究する。 	B	コロナによる活動制限があったが、別の形でパフォーマンステスト等を実施することができた。例年以上の回数を実施できたことにより、新たな形式のライティングテストを実施したり、ガイドライン及び評価基準の見直しもできた。CAN-DOの見直しを進めながら、リスニング向上する活動について研究を進めることができた。

情報	高度情報化社会における課題を認識し、情報機器を活用した解決の方法や情報モラルについて考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい情報活用手段のあり方について、パソコン等のICT機器を利用し情報活用を行う。 ・他教科との連携を図り、PCを用いて文書作成・表計算ソフト等を活用し技術向上を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響によりグループワークなどの活動に制限は出たものの、パソコンを利用して情報活用手段の在り方や情報モラル等について取り組むことができた。 ・実習に関しては、欠席した生徒や遅れが出ている生徒を対象に補習を設けて課題作成に取り組んだ結果、一定の技術向上が見られた。
総合的な探究の時間	2学年での実施にあたり、計画に定める目標を達成できるように、各学期の取組を組織的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・企画会議と担当者会議において、協議・連絡による共有を丁寧に行う。 ・学習をグローバルネットワーク京都の取組につなげる。 ・各学年において、外部講師や機関との連携を積極的に行う。 	B	<p>【成果】1年生及び2年生の学習が、担当教員と関係分掌との連携によりほぼ計画どおり進められた。関連して外部機関との連携も深めることができた。グローバルネットワーク京都への取組も、総探を中心にして無事に完遂できた。</p> <p>【課題】コロナ禍の影響からできない活動も多かった。次年度も、感染予防をふまえた活動計画が必要である。また、2年間の取組をふまえ、「科目」としての指導を進める体制づくりが次年度の課題となる。併せてICT機器を活用して学習してきた生徒が入学するので、学習内容を対応させていく必要がある。</p>

学校運営協議会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ○土曜授業解消に伴う学力伸長策として、学習用端末や今年度試験的に導入されたオンライン教材等を効果的に活用し、生徒の学びを充実させていただきたい。 ○教職員のICT活用能力向上を目的とした教職員研修の積極的な実施及び効果的な活用法の研究等により、授業改善に取り組んでいただきたい。 ○文化祭等の学校行事は、生徒の学校生活に対するモチベーションを高め、成長を促す大切な機会である。コロナ禍であっても、感染症対策を講じながら開催できるよう工夫いただきたい。 ○学校評価アンケートの結果から、「東宇治高校に入学して良かった」と感じている生徒が7割以上存在するが、卒業時の生徒に何が残っているのか興味がある。 ○英語探究コースについては、新たな特色や魅力づくりに努めていただき、地元の中学生が憧れる学校づくりに努めていただきたい。 			
--------------	--	--	--	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○来年度の土曜授業解消に伴う生徒の学力伸長策として、学習用端末やオンライン教材等を効果的に活用し、個別最適な学び、協働的な学びを充実させた授業改革に継続的に取り組む必要がある。 ○コロナ禍における文化祭の在り方やその内容等を見直し、一連の取組を通して生徒が自身の成長を実感し、文化祭が本校の新たな魅力となるよう、取組方法や内容のリニューアルを検討する必要がある。 ○これまで積み上げてきた特色ある英語教育の取組と課題探究型学習や国際理解教育、伝統文化教育の取組を生かした、本校の新たな特色化・魅力化を推進するとともに、地域や他校種との連携を深め、地元信頼され、中学生が憧れる学校づくりに努める必要がある。 			
---------------	--	--	--	--